

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム ひなた

日付 平成18年8月25日
特定非営利活動法人
評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年
評価調査員 老人保健施設介護実務経験6年、
居宅支援事業所介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

人の心を和ませるものは「人の笑顔だ」と、このホームに入って改めて感じた。何より職員の花顔が良い。その笑顔が利用者の笑顔に伝わっている。もちろん、その反対の場面もある。もし、私がグループホームで暮すなら、このように笑顔いっぱいのホームが良いなあと思う。

「のんびりとした時間を共に過ごしたい」「利用者にとって、あったかい場所でありたい」「ひなたぼっこが出来るといいホームを」と願う代表者の夢を管理者は職員に具体化して示し、職員はこれらの思いを共有し、実現している。現時点での問題点を良く把握し、到達目標もきちんと見据えている。「難題にぶつかりながらの毎日の中から、利用者の残された力の発見・気付き計画中」と語る職員に、頼もしさを感じた。

昨年度の外部評価から比較して見ると、大きく飛躍しようとする姿、悩みながらもより良いケアを目指して一生懸命頑張ろうとする意欲を強く感じた。「グループホームひなた」の基盤づくりは、ほぼ、出来上がりつつあるのではないかと思う。次のステップへの始動も感じられる。「私達職員は、利用者の言われる希望をそのまま鵜呑みにするのではなく、その言動から心の奥深い所にあるものを探り当てたい」と願う姿は、より高い所へ足を踏み入れている証拠であろう。

特に改善の余地があると思われる点

次のような提案をした

利用者の個別の意志や希望の引き出し方、光の当て方にもう少し工夫や積極性が欲しい。利用者が潜在的に持っている力の発見に力を入れ、上手くり導いていけば、今以上にホームでの自分の役割や生きがいを見つけれられるかも知れない。

グループホーム内での問題を職員だけで解決しようとしなくて、「ひなた新聞」を利用する等して、家族や地域と共に考え話し合うチャンスを作って欲しい。こういった姿勢は「オープンなホーム作り」になるだけでなく、「認知症ケアの情報の発信地」ともなって、社会にホーム機能を還元する事にもなる。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>「笑いと楽しさのある普通の生活」を介護理念に、職員の花顔が利用者の笑顔に繋がっている。「皆さんの嫁のつもりですよ」「ひなたで唯一の男性。けど、おばあちゃんと孫の関係かな?」「おっとり、天然ですがよろしく」「おっちょこちょいの慌てんぼうな私。皆さんと大笑いの毎日」こんなことをそれぞれの職員が気軽に言い合い、個性豊かな職員が居て、ほのぼのとした雰囲気である。</p> <p>家族からも「うちのおばあちゃん、笑顔が多くなった」「表情がとても優しくなった」「ひなたに入居して良かった」と評価してもらっている。こんな家族からの言葉こそ、グループホームの目指すものではないだろうか。</p> <p>一人ひとりの利用者をしっかりと見つめ、話し相手になり、不安や寂しさを取り除いていこうとする地道な努力があってこそ、と思われる。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>利用者がしたいこと、思うことが自由に言え、どんなことでも耳を傾けようという場づくりが出来つつある。今以上に本人のバックグラウンドを知り、意志を推察する為にはまだやるべき仕事はあるが、少なくとも「いつも、私達があなたのそばに」の介護理念どうり、気配り、目配りがなされ、利用者は安心できる場に落ち着いている。</p> <p>利用者にとっては「あったかい我が家」、家族にとっては「いつでものぞけるお隣の家」となっている様子が、記録から、また、今日の利用者の表情から伺うことが出来た。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

II ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴楽の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>このホームが最も力を入れようとしている項目の一つに「一人ひとりの力を尊重し、実現させる」というものがある。外出や買物の希望があれば、今すぐにも実行したい。家族とも相談しながら、例えば、編み物やレース編み、居室でテレビを楽しむ等、可能な限り希望を聞き実現できるようにしたいと管理者は言う。</p> <p>なかでも「このホームを以前勤めていたような生産職場と思っているある利用者の気持を大切に、4つの内職場に問い合わせ、訪問して直接相談した。しかし、現実には厳しく、今はその利用者の話す仕事により近い作品作りをしている」という話は心底心打たれた。こういった職員の試行錯誤や工夫は、必ず利用者本人や家族の心に響くだろう。</p> <p>どんなに小さな事でもよい、一人ひとりの隠れていた力や経験、思いがけない発見に光をあてて欲しい。光のあて方に今以上の工夫が加われば、もっと生き生きとした喜びに包まれたホームになるに違いない。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	<p>昨年の外部評価の提案に対して、その一つ一つを真剣に取り組み、改善の努力を積み重ねてホームの財産となっている。「やらなければならない、やりたい事が目の前に一杯。始めても、なかなか思うようにいかないことも多くて」と語る管理者の悩みこそ、より良いケアにつながる。「研修を出来るだけ受けよう」「学習会をしたり、他のホームとの交流もしたい」「家族や地域とのつながりも深めたい」といった大きな目標もしっかり見届けられた。ほんの些細な小目標をユニット毎に設定したり、一寸した問題発生を良いチャンスと捉えて、家族や地域と共に一步一步前進して頂きたい。</p>		